

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	キリストの教えである「愛と希望」の精神を基盤とした運営。を基本理念として掲げているが職員一人がこの理念を理解・把握できていない状態である	年度初めに理事会にて理念をもとにした今年度の目標を設定し、会議にて職員へ周知徹底しました。	職員に理念を浸透できるよう、ホームに掲示したり、会議にて確認の機会を持つなどの検討をされることを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	機関紙「のぞみ」を年二回発行し郵送を行っていたり、ホームの玄関に隣接する大学のパンフレットなどを置いている。近隣には自動車販売店や印刷会社が立ち並び、民家がないため近隣の民家などとの交流はなかなか図れない状態である	6月と11月の年2回、事業所広報を発行し、ご家族・大学・キリスト教関係施設に配布しています。また、近隣の幼稚園の園児がホームの畑でさつまいもの収穫を手伝ってくれています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員は日々の実践で認知症への理解を深めているが、地域への発信まではまだできていない状態である		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進委員会を開催している。ホームでの活動・状態などをご家族や大学職員に報告し、またそこから意見を得ることによってホームの向上を行っている。	2ヶ月に1度、包括支援センター職員、敬和学園教授、民生委員、ご家族代表に参加してもらい、ご利用者の状況報告、ホームでの事故報告などを行い、意見交換をし、ホームの運営に繋げています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新発田市の高齢福祉課(介護指導係)と連絡を取り合って助言を受けている。また、二ヶ月に一度介護相談員を受け入れている、そこからも助言をいただいている。	市の職員には運営推進会議にも参加いただいているほか、2ヶ月に1度は介護相談員の受入も行うなど連携をとりながら運営を行っています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の中で日々のケアの中で何処までが身体拘束かという正しい理解が行えていないのが現状である。	玄関の施錠は行わないなど身体拘束を行わない方針で運営しています。状況によってやむ得なく身体拘束をする場合にもご家族に説明・同意を必ず行っています。	身体拘束に関するケース検討や研修の機会が確認できませんでした。職員の理解向上の機会を設けられることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアで虐待にあたる行為が行われていないか注意を払い見過ごされることの無いように防止を努めているが、学ぶ機会が無いのが現状である	身体拘束同様に虐待についてもケース検討や研修の機会が確認できませんでした。	虐待に関するケース検討や研修の機会を設けられることを期待します。
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会をもてていないことが現状である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際のご家族からの意見・不安や疑問点を尋ね、その意見に対し、こちらからもしっかりと答えて納得していただけるようにしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見をホーム全体に反映することができるようにつとめている。	日常の面会時や電話でのご家族とのやりとりにて要望の確認をしているほか、ご家族代表には運営推進会議にも参加していただいています。	ホームの行事にはご家族にも案内を出し、参加していただくことを検討されることを期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤者会議を月に一回行っており、そこで、意見や提案を反映させるようにしている	毎月の常勤者会議、月に2回のユニット会議で意見・要望の確認を行っています。また、職員へのアンケートを実施したり、状況に応じて個人面談を行なうなど、職員の意見を反映できるようにしています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員一人ひとりと面談を随時面談を行っている。そこで職員一人ひとりの思いなどを確認している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での研修や外部の研修を行いまた、報告会を行い、研修を受けた職員・そして報告会に参加した職員のスキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会や外部の研修会などに参加しているがサービスの質の向上とつながる取り組みはこれからである。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面談の段階で入居されるご本人の不安に思っていることを確認し、それをホームに持ち帰り、この方の不安なことに対しどのように向かっていけばよいのかということと話合ってから入居していただくようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には何でも相談して頂けるようにしている。またこちらからも入居者の方にとってその時その時で良いと思われる提案を家族に相談し、了承を得てから行っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された時、その方を一番にみつめ、常に寄り添いどのようなサービスを提供してほしいのか見極めて、そのときに必要なサービスは何なのかを考えている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている方は人生の大先輩であることを職員が理解し、常に寄り添うことのできる信頼関係を大切に築いている		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方々のご家族と様々な事を報告・連絡・相談し、入居者の方一人一人を支えていく事の出来る環境を作っていけるように努めている。	年に2回事業所広報を作成し、ご家族に送付したり、行事に合わせて個別のお手紙を作成しお送りするなど、ご家族とも情報が共有できるよう努めています。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのお店に行かれている方もいらっしゃる。また付き合いの長い友人の方が面会に来て下さると言った事も大切にしている。	知人の面会を受け入れたり、行きつけの理美容室への利用支援などを行い、これまでの関係が継続できるよう支援しています。	ご利用者の馴染みの関係を把握し、個々に応じた外出支援にも取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	集団の中の一人ではなく、初めから一人一人 という考えでケアを行っている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してもこれまでの関係性が なくなならないようなフォローを行っている		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	その人がその人らしく暮らしていただけるよ うに、こちらからは「○○しましょう」と上から 言うのではなく「○○しませんか?」という自 己決定していただけるように努めている	日々のご利用者とのやりとりにて要望を確認 し、その都度対応するように心がけていま す。	ご利用者から確認した意向を記録に 取り、職員間で共有できるように対応 されることを期待します。
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居が決まったらすぐにユニット内で会議を 行う。そこでは面談での様子、その時に日 常生活などの報告を行い職員間で周知をし ていく事に努めている	入居の際にご利用者、ご家族等から確認し た情報をもとに、これまでの生活の情報を フェイスシートにまとめています。	入居後に把握した情報についてもフェ イスシートに追加できるよう、定期的 に見直し・更新の機会を設けられるこ とを期待します。
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で寄り添いその人を見つめ ることにより一日のリズムなどを把握してい る		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ユニット内では会議を行っている。その中で 意見を出し合いながらよりよいケアを行って いくように努めている。また、家族に速やか に報告・連絡・相談を行っていきけるようにし ている。	ユニット会議にてご利用者の状態を確認し、 プランの見直しを行っています。モニタリング は毎月を基本とし、サービス担当者会議も 3ヶ月に1度の実施予定ですが、現状はでき ていません。	毎月のモニタリング、3ヶ月に1度の サービス担当者会議を実施し、定期 的に介護計画を見直す機会を設けら れることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	職員それぞれの目での気づきを記録に記 載し、それを申し送っている。また、改善を 行っていく際には職員一人一人から出た意 見をまとめ良い方向に向かっていくよう努め ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに答えられるスピーディーな対応をとるようにしている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大学との連携を図り、散歩や大学での行事に参加させていただくなどといった生活を送っている		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際はそれまで受診していた医療機関に受診して頂いている。またホームでの相談医を設けそのドクターに相談を行えるようにしている	ご利用者・ご家族の希望に合わせた医療機関にて受診しています。基本的に受診支援はご家族にお願いしており、必要に応じてホームからも医師へ情報提供を行っています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し密に、連絡を取りながら入居者の方一人一人に適切な受診や看護を受けて頂けるように行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、こまめにお見舞いに行くように努めている。その際に病院の看護師や医師に病院での様子を細かく聞いている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者は今後は看取りを行って行きたいと話しているが、職員の技術レベルを考えるとまだ難しいというのが現状である	管理者は医療行為が伴わなければ支援は行っていきたいと考え、ご家族にも契約の際に説明はしていますが、ホームとしての指針や職員との検討の場はまだありません。	職員とも協議し、ホームとしての指針をまとめ、職員と共通理解をされることを期待します。
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に職場内研修を行っている。応急手当や初期対応の対応に関しても行っていく予定である。	月に2度、想定されるケースを対象に職員研修を行い、職員が適切な初期対応ができるよう支援しています。	救急救命の講習など外部研修の機会も活用し、職員の実践力を向上されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤帯・夜間帯それぞれでの火災を想定しての防災訓練を実施している。今後地域との、協力体制を築く努力をしていく	年2回、日中・夜間の火災を想定し防災訓練を実施しています。しかし、地域の方の参加はなく、ホームには非常用の食品や水の備蓄は確保されていませんでした。	災害時の地域との協力体制やホームでの非常用食品や水の備蓄の検討を早期に対応されることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「してあげる」のではなく「させて頂く」という気持ちを忘れずに日々の対応を行っている。	ご利用者の尊厳を大切にされたケアに努めており、ご利用者の写真を広報や敬和学園大学のパンフレットに使用する際も必ず確認をとっています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「 しましょう」ではなく「 しませんか？」という声かけで自己決定して頂けるような声かけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から「〇〇しましょう」と上から言うのではなく、その人がどのように過ごしていきたいかということを常に考えて職員は行動している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の介助が必要な入居者に関しては、職員で天候・気温をみながら調節させて頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人お一人にあった食事形態にて提供させて頂いている。配膳や下膳を入居者の方々が自ら行って下さる時もある。	ご利用者の状態に応じてじゃがいもの皮むきなどの下ごしらえや配膳、下膳を手伝ってもらっています。ホームには畑もあり、そこで収穫した野菜も食材に使用しています。	ご利用者へのメニューの紹介や外食の機会を設けるなどして、食事がより楽しみなものになるように検討されることを期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は外部に委託している。栄養士がたてた献立の為、栄養バランスに関しては問題ないと思われる。食事は毎食確認記録を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合った口腔ケアを行っている。義歯を装着している方は夜間外して頂き、入れ歯洗浄剤にて洗浄している		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、その時間でトイレ誘導や声かけを行っている。	ご利用者に応じた排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを行い、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を観察している。排便に関する服薬がある方は調節を行っている。又、水分を多く摂取するように促している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯を希望される場合はその希望にそえる努めている。どの入居者にもであるが気持ちよく入って頂くようにという事を考えながら行っている。	入浴は基本として一日おきとしていますが、ご利用者の希望に応じて支援しています。入浴を嫌がる方にもタイミングを見計らい声かけして、お風呂に入ってもらよう努めています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中・夜間とわず休みたいという時はゆっくりと休んで頂けるように努めている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された場合は申し送り、周知している。また処方箋を個々のケース記録に挟みいつでも閲覧できるようにしている。服薬の際には薬の袋に記載されている名前・曜日・時間を声に出して確認・復唱してから服薬をして頂き、誤薬を防ぐように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方が好きなこと(歌を歌ったり・編み物をしたり・散歩や外出)などを行い楽しみながら日々を暮らしていけるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「散歩がしたい」という要求に対しては、職員が付き添い散歩を行っている。また昨年度2月より社用車を購入した。これにより、普段外出する事の出来ない方も外出する事によって、気分転換が出来るのではないかと考えられる。	今年度は社用車も購入したので、ご利用者にホームでの生活をより楽しんでもらえるよう、お花見やあやめ見学、ぶどう狩り、紅葉狩りも企画し、季節に合わせた外出を楽しんでいただく予定です。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方々に金銭を使う方はいらっしゃらない。「がほしい」という要求に対しては、職員で話し合い、購入する場合は預かり金から購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方にかかって来た電話は職員が取り、つないでいる。また手紙が書きたいという事はこれまでにないが、あれば支援を行えるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはピアノやじゅうたんなどを設置しており、椅子とテーブル以外にも座っていただけの場所を設けている。また、中庭はガラス張りの中からも見るようにできているようになっていて、中から畑や植物を見ることができるようになっている。どの場所からもほかの入居者の方の目に入らない死角をつくり、他の入居者の目が気にならないようにしている	フロアにはソファやピアノが置かれていたり、畳のスペースもあり、ご利用者同士がテレビを見ながらゆったりと過ごせるようにされています。共有スペースからは、ホームの中庭もよく見え、畑の野菜や季節の草花を見渡すことができます。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースに入居者の方々同士の目に着かない場所(死角)をつくり、周りの目を気にしないで過ごすようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際にご家族にそれまで使っていた布団や食器を持ってきていただくように話をしている。また居室内の配置に関しても、制限を設けることなく自由に配置して頂くようにお話している。	ご利用者・ご家族とも相談し、タンス等の家具やご家族の写真など、使い慣れた物、好みの物を持参し、居心地良く過ごせるように支援しています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリー完備であり、「新潟県福祉の街づくり条例」に適合している		